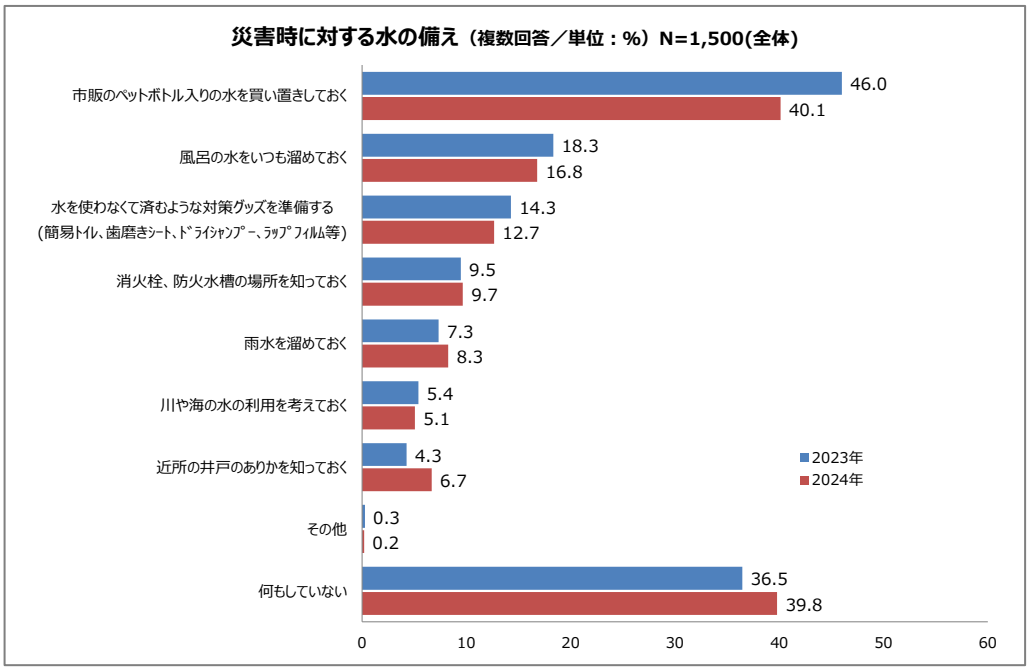
【緊急レポート】水の備えに関する意識変化

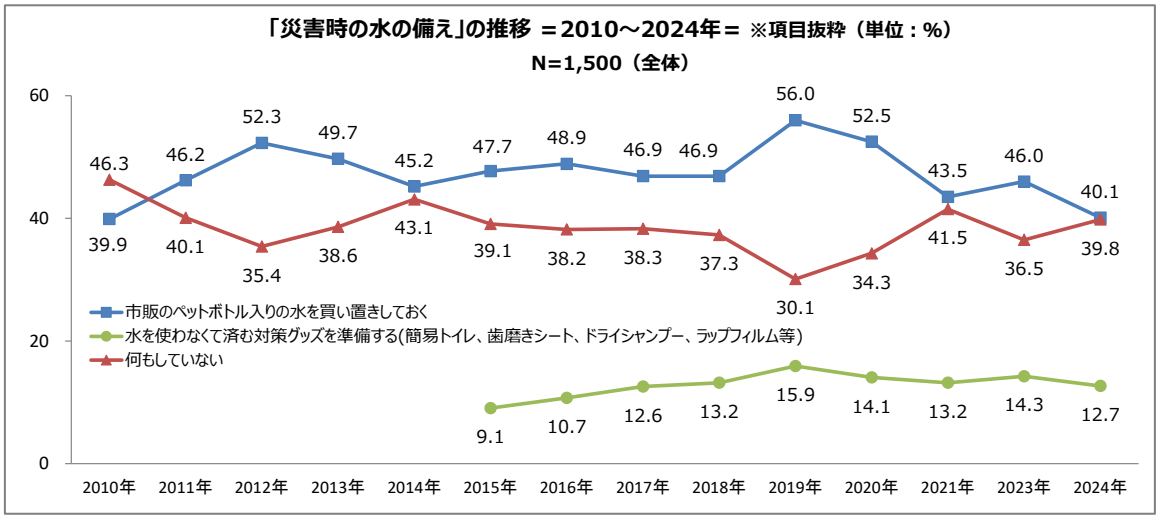
地震や豪雨などの大規模な災害が頻発している昨今、災害時の水の備えに対する生活者の意識はどのように変化しているのでしょうか。今回、昨年に続き災害時の水の備えに関する設問を調査し、2010年以降の経年比較を行いました。

Q.災害時に対する水の備えは？　（7択＋その他＋何もしていない）

◇何もしていない人が4割に迫る勢い

今年の結果は、「市販のペットボトル入りの水を買い置きしておく」（40.1%）がトップであるものの、数値は昨年から5.9ポイント減少しました。2位は「何もしていない」（39.8%）で、こちらは昨年比3.3ポイント増で4割に迫る勢いとなっています。以下、3位「風呂の水をいつも溜めておく」（16.8%）、4位「水を使わなくて済むような対策グッズを準備する（簡易トイレ、歯磨きシート、ドライシャンプー、ラップフィルム等）」（12.7%）、5位「消火栓、防火水槽の場所を知っておく」（9.7%）となり、トップ5の順位自体は昨年と同様でした。



◇2019年をピークに減少傾向

2010年以降の主要項目の割合を経年でみたところ、2010年は4割にも満たなかった「市販のペットボトル入りの水を買い置きしておく」は、翌年以降に数値を上げ、概ね5割前後で推移していますが、2019年をピークに近年は減少傾向にあります。2010年のトップだった「何もしていない」は、その後概ね4割前後で推移し、2019年には30.1%まで減少するも、以降は増加傾向と言えます。2015年に項目を追加した「水を使わなくて済むような対策グッズを準備する（簡易トイレ、歯磨きシート、ドライシャンプー、ラップフィルム等）」は、概ね1割強で推移し、2024年は12.7%となっています。今年1月に発生した令和6年能登半島地震では、トイレ対策の重要性が浮き彫りになりましたが、災害時に下水道へ水を流せなくなることへの意識の高まりは、まだ見られませんでした。